



# かもめ便り

記事紹介

理事長挨拶  
 納涼祭  
 給食だより  
 健康講演会の開催  
 薬局だより  
 Dr.'sエッセイ

1 面  
 2 面  
 3 面  
 3 面  
 3 面  
 4 面

社会福祉法人 小渦会 鳴門シーガル病院  
 理事長 並木 俊明

シーガル病院

検索

【ホームページ】 <https://k-seagull.jp/> 【所在地】 徳島県鳴門市瀬戸町堂浦字阿波井57番地 【TEL】 088-688-0011 (代)



## 就任のご挨拶

理事長 並木 俊明

令和5年6月22日に開催された理事会におきまして、理事長に就任いたしました。

昭和2年に、神職や地域の方々のご努力で集められた浄財により、阿波井島保養院が開院して96年余り、地域の皆様、医療・福祉関係の皆様、行政機関の皆様など多くの方に支えられ、徳島県における精神科医療の先駆者として、時代の要請に応えながら発展してきた当法人の重要な役職を担うこととなり、身の引き締まる思いです。

徳島県内では唯一の、社会福祉法人が経営する病院ならではの取り組みとして、経済的に困窮している方を対象に「無料低額診療事業」を実施するとともに、職場復帰に向けたウォーミングアップを行う

「リワーク事業」や、抗うつ薬で効果が見られないうつ病患者の方への「rTMS療法（反復経頭蓋磁気刺激療法）」を県内で最初に導入するなど、経営理念である「より人間的な医療と福祉を求めて」経済性優先ではなく、社会的要請や利用者の立場に沿った運営を行ってまいりました。

また、精神保健医療福祉施策が、「入院医療中心から地域生活中心へ」と変化したことに伴い、退院患者の生活を支援するため、訪問看護やデイケアといった医療系のサービスに加え、グループホームや就労支援、特定相談など福祉分野の事業も実施することとなりました。

今後も、当法人を設立された先人の思いを受け継ぎ、精神に障がいを持たれる方お一人お一人に寄り添いながら、地域の皆様からも信頼される法人であり続けられるよう取り組んでまいりますので、変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



開院当初



現在



## イベント

## 納涼祭

7月21日に納涼祭を開催しました。焼きそば、フライドポテト、アイスの屋台が並び、美味しそうな匂いが漂って、お祭りの雰囲気を感じ出していました。入院患者の方々が屋台を囲み、笑顔と会話があふれ、イベントの賑やかなスタートとなりました。焼きそばのソースの香り、フライドポテトのサクサクした食感と、アイスの冷たい甘さが、患者の皆さんに夏の楽しさを届けていました。スタッフも患者様のサポートをしながら、一緒に楽しみ、イベントの雰囲気もとても温かいものになりました。

さらに水鉄砲を使った射的のゲームも催され、入院患者の皆さんは楽しそうに参加され、笑顔が絶えない光景が広がりました。ゲームを通じて競い合い、笑い声に包まれて、より

一層盛り上がりを見せていました。

夕方になると待ちに待った打ち上げ花火が開始。パッと広がる花火の美しさに、皆さんの目が輝いていました。夏の空に彩りを添える花火は、とても印象的でした。「ここは入院しとっても、近くで花火が見れるけんええな。」と、喜びの声も聞かれました。

納涼祭は、入院患者の皆さんにとって、日常から離れ、リフレッシュできる貴重なひとときとなりました。イベントを通じて、患者様同士やスタッフとのコミュニケーションも生まれ、笑顔もたくさん見られました。同じことの繰り返しになりがちな入院生活において、こうしたイベントの開催が、こころのケアの一翼を担うと改めて感じました。





## 給食だより



先日、季節のお魚「鮎」を給食の特別メニューでお出ししました。この季節が最も旬を迎える鮎。清流で育つこのお魚は豊富なたんぱく質のほか、ビタミンB群や、鉄分、カルシウムなどのミネラルもたくさん含まれていて、体の新陳代謝をサポートしてくれます。

またDHA、EPAなどの、いわゆるオメガ3脂肪酸も含

まれているので、血液の流れを改善する効果もあります。

そんな夏バテの体にもピッタリな栄養豊富な鮎ですが、召し上がった患者さんたちからは、美味しいと満足そうな声を多数いただきました。

今後も季節のものを皆さんに楽しんでいただけるよう、日々メニューを工夫してまいります。

## イベント

## 健康講演会開催のお知らせ

しばらくの間、新型コロナウイルス感染拡大等の影響で開催を見送っておりましたが、右記のとおり健康講演会を開催する運びとなりました。講師は渡部真也先生で、演題は「高齢者の心の健康について ～活気ある明日へ～」です。

講演の前後には、看護師・栄養士・薬剤師が対応する健康チェック・健康相談も実施しております。

毎月第3木曜に定期開催している健康チェック・健康相談会はもちろんのこと、地域の皆様の健康維持のお役に立てるよう、今後も様々な講演会等を開催していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

## 健康講演会

## 高齢者の心の健康について ～活気ある明日へ～

講 師：鳴門シーガル病院  
副院長 渡部 真也 先生

日 時：10月19日（木）  
AM 10:00 ～ 11:00

会 場：瀬戸公民館  
（鳴門市瀬戸町堂浦）

参加費：無料

薬局  
だより

近年、医薬品の供給不足が深刻な問題となっています。お薬を製造する段階で問題が見つかったり、お薬の材料が足りなくなったり、またコロナの感染拡大時にもあったように、

急に同じお薬がたくさん必要になる場合など、原因は様々です。

患者様の希望されるお薬をできる限りご用意できるよう、早めの在庫確保や、各社との交渉に努めておりますが、お薬の種類によってはなかなか難しい場合もあります。

そんなケースに備えて、近い

効果を持つお薬や、同じ成分のお薬を手配するなど、日々工夫を重ねています。

今後もまだ供給不足の医薬品が出てくる状況が続きそうですが、いっそう対策に努めていきたいと思っております。







前回のかもめ便り(第31号)にて入職の紹介をしていただいた枝川です。私は直近4年間は週に1度、鳴門シーガル病院に通勤(と当直)していました。山と海に面した当院の環境は心地よく、四季の移り変わりが感じられる自然豊かな場所です。少しですが、この度は私が鳴門シーガル病院の四季を紹介したいと思います。

春はウグイスの鳴き声から始まります。あの「ホーホケキョ」ですが、春先はまだ鳴き慣れておらず、音程がずれたり途切れたり、あまり上手ではありません。しかし時期が進むにつれて、次第に馴染みのあるあのリズムになってきます。また、船着き場の岸壁から海を覗き込むと大きく育ったワカメが揺らめく様が見えますが、稀にマダイが回遊してくることもあります。まさに天然の鳴門

わかめと鳴門鯛です。

夏はコシアカツバメという珍しいツバメが見られます。腰赤の名の通り腰の辺りが赤褐色ですが、体色よりも巢のほう特徴的です。徳利を縦に割って天井に貼り付けたような形をしています。多くの鳥類が上の空いた巣を作る一方で、コシアカツバメは自作の洞穴の中で子育てをしているわけですが、鳥なのに暗いのは平気なんですか。海のほうはクロダイが増え、栈橋の陰には多くのスズキが密集して日差しを避けています。魚も暑いのは苦手なんですね。ちなみに魚も日焼けすると黒くなります。

秋は台風シーズンです。普段は穏やかな小鳴門海峡は激しく白波を立てます。また、山間から海面にかけて霧がかかり雲が落ちてきたかのような光景は、晴れ渡った夏の姿とは別世界の

ように見えます。こうなると渡船が運航停止になることは皆様ご存じかと思います。

冬は空気が澄んでいることから星がよく見えるようになります。堂浦地域は夜間の灯りが少ないため、オリオン座をはじめとした冬の星座が教科書通りに見えて感動します。

四季の変遷で印象に残るものを挙げてみました。今年から常勤になり当院で過ごす時間が長くなったため、春夏の様子をより詳しく知ることができたように思います。秋冬も新しい発見があるのではないかと楽しみにしています。ぜひシーガル病院に見に来てください、というのは難しいと思いますが、皆様が身近な自然に注目するきっかけになれば幸いです。

医師 枝川 令音

## 【編集後記】

やっと残暑が落ち着いてきましたが、皆様体調はいかがでしょう。朝晩少し肌寒い日も増えてきたので、体調管理に気を付けましょう。

次号(『かもめ便り』第33号)は、2023年11月に発行の予定です。

広報委員会



## 鳴門シーガル病院 交通案内

- JR鳴門駅から「北泊・堂浦行」徳島バスで堂浦(どうのうら)下車(所要時間20分)

- 直営渡船利用 (所要時間2分)

◎ 渡船(無料) 運航時間

午前7時30分から午後5時20分まで

定時運航(10分～30分間隔)しています。

TEL088-688-0011(代)

